

平成28年 4月 1日
東京都立清瀬高等学校長
梅原章司

平成28年度東京都立清瀬高等学校 経営計画

教育目標

- 未来を見つめ、高きを求める人を育てる。
- からだを鍛え、情操豊かな人を育てる。
- 自己に厳しく、責任を重んずる人を育てる。

1 目指す学校

- (1) 教職員一人ひとりが学校運営の視点を常にもち、組織的な協力体制を構築できる学校を目指す。
- (2) 生徒に学習活動・部活動・学校行事等のバランスがとれた高いレベルの教育を提供できる学校を目指す。
- (3) 生徒に社会性を身につけさせ、生徒の人間性を高める指導を様々な教育活動の場面で行う学校を目指す。
- (4) 生徒が掲げる高い進路目標を実現するため、生徒のためにできることは、慣習や前例に囚われることなく実行できる学校を目指す。
- (5) 体罰・いじめなどの発生防止の徹底と特別支援教育の整備に取組み、保護者や地域から信頼され、中学生やその保護者から選択される学校を目指す。

2 中期的目標と方策

- (1) 生徒の学力向上
 - ・ 学力スタンダードに基づく教科指導を行い、本校の標準とする学力を全生徒に保証する。
 - ・ 教科指導計画を生徒の進路希望に合わせ改善し、担当教員の授業力のみならず、教科が組織として授業の質を保証する。
 - ・ 土曜日の学習活動をより効果的に改善する。
 - ・ 長期休業日等の講習、補習について、各教科の総力をあげ、組織的に計画・実施・検証を行う。
- (2) 第一志望の進路実現
 - ・ 進路指導部を中心とした進路指導体制を確立し、学年ごとの進路指導を統括・支援する。
 - ・ 進路情報等をタイムリーに提供し、生徒の進路実現へのモチベーションを高めるとともに、生徒の向学心とチャレンジ精神を継続させる指導を行う。
 - ・ 3年間の進路指導計画に基づき、効果的な授業・補習・講習を実施する。
 - ・ 定期的な模擬試験等を活用し、生徒の学力についての分析・検討会を計画的に行い、教員相互で情報の共有を図り、生徒一人ひとりへの教科指導を適切に実施する。
- (3) ソーシャルスキルの育成
 - ・ 生活指導指針に基づき、家庭の協力、地域の理解を得ながら、全教職員が一致して生活指導の徹底を図る。
 - ・ 生活指導部、学年担任及び部活動顧問が生活指導の方針を共通理解し、実行する。
 - ・ グローバル社会を生き抜く力を育成する。
- (4) 体力向上と心と体の健康促進

- ・ スポーツ特別強化校として、部活動全般の活性化を図る。
 - ・ 生活指導部、学年及び部活動顧問が連携して部活動加入を促進する。
 - ・ 部活動指導に外部指導員を活用し、競技力向上を図る。
 - ・ 学校行事や部活動を通して、努力と成果を体感させ、継続的な努力の大切さを学ばせ、本校生徒としての仲間意識や学校への帰属意識を醸成する。
 - ・ スクールカウンセラー等を活用し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。
- (5) 組織的な学校運営体制の構築
- ・ 本校独自の特色を再認識し、教育活動をより効果的なものに再構築する。
 - ・ 総務部を中心とした組織的広報活動を展開し、本校の教育活動を保護者はじめ、地域・中学校等へ計画的かつ適時に発信していく。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 学力向上と進路実現

①学習活動

- ・ 生徒の進路希望に合わせ、3年間の教科指導計画を策定する。また、教科会を活用し、授業担当者で、綿密な共通理解を図り、内容・指導レベル等について質・量とも適切な授業を教科として提供する。さらに、定期考査等でも共通問題を奨励し、評価の平等性・統一化を図る。
- ・ 「学力スタンダード」に対応した年間授業計画を作成するとともに、明確な目標に基づいた指導と評価を行うことで、指導内容・方法の改善を図る。
- ・ 生徒の基礎学力の定着を図り、進路に応じた授業内容を展開する。
- ・ 土曜講習を生徒のニーズに合わせ、受講者の増員を図る。夏季休業日等の講習も主要教科の教員が全体制制をとり、生徒の進路希望別の講習を提供する。特に、第一志望の進路実現に向け、着実に力をつけられるよう、組織的・計画的な講座を提供する。
- ・ 習熟度別授業を英語(2,3年)と国語(古典)(2,3年)及び、数学(1年)で実施し、主要3教科の指導効果を強化する。また、定期的に生徒の学力を計測し、クラス替えを行うことで、生徒の学習に対する緊張感を維持し、効率的な授業展開を推進する。
- ・ 土曜日を中心に大学生によるチューターを配置し、生徒の自主学習を促進する。土曜講習日の午前は学習、午後は部活動という流れを生徒・教員でつくり、2学期以降は、土曜授業日の午後についても、3年生の自学自習を推進する。
- ・ OJTとして教科内外を問わず、授業参観を全教員で実施し、教員相互の授業力の向上を図る。また、指導教諭等、他校の授業を積極的に見学し、教科指導方法の改善に努める。
- ・ 世界の多様な国々の歴史や文化を学ぶとともに、留学生や外国人、海外の学校等との交流を促進し、豊かな国際感覚を養う。

②進路指導

- ・ 進路指導部が主導的立場で、各学年と連携を図りながら、3年間の進路指導計画に基づき、進路指導を実行する。
- ・ 全校集会時に毎回、進路指導部からの講話を行い、生徒の進路に対する意識を高める。
- ・ 全学年、適切な時期に模擬試験を実施するとともに、その後の振り返り学習を徹底する。
- ・ 生徒の学力を定期的に測定・把握し、結果分析を進路指導部と学年とで行い、各教科・全教職員へ、今後の学年や個人指導の改善点について、指示及び周知する。
- ・ 大学のオープンキャンパスや訪問授業等を活用し、生徒の進学への意識を高める。

(2) ソーシャルスキルと健全な心身の育成

①部活動の推進

- ・ スポーツ特別強化校として、ソフトテニス部及び少林寺拳法部の一層の強化を図るとともに、他の部活動についても活性化を図る。
- ・ 生活指導部、学年及び部活動顧問が連携して部活動加入を促進し、各部活動の活性化・充実を図る。
- ・ 部活動顧問も、生徒の学力の把握を定期的に行い、クラス担任や教科担任と協力し、生徒の学力向上の支援に努める。学業を疎かにせず、礼儀や規律を重んじる学校生活の励行により、他校の範となるべき生徒の育成を行う。
- ・ 清瀬高校杯の実施や地域活動への参加を通し、地域や中学校との連携を強化する。
- ・ 文化・スポーツ等特別推薦の実施により、部活動の活性化を図る。また、その生徒の学校生活を定期的に確認することにより、文化・スポーツ推薦の成果を全教員で検証・共有する。

②特別活動の推進

- ・ 生徒の委員会主体で運営できる組織的な学校行事を維持し、活性化を図る。
- ・ 生徒会を中心に特別支援学校との交流等を行い、障害のある児童・生徒との交流を通じ、多様性の尊重、障害者理解といった心のバリアフリーを育てる。
- ・ 1, 2年生全員による読書感想文コンクールや書評合戦を実施し、読書活動を推進する。

③生活指導の充実

- ・ 社会人として身に付けておくべき、礼儀やマナーを重点的に指導し、生徒の自律心を磨き、国際的にも通用する社会性を高める。
- ・ 遅刻指導、頭髪指導、制服指導については、生活指導部が中心となり、学年・家庭と連携し、組織的、継続的に取り組んでいく。
- ・ 様々な活動時間を遵守させ、けじめのついた学校生活を送る指導を行うことにより、生徒の自律心を育成する。
- ・ 生徒一人一人に、学習活動・部活動・学校行事においてバランスの取れた高校生活を経験させ、生徒の主体性を育む。
- ・ 儀式、始業式、終業式等において、校歌指導を行うことにより、学校への帰属意識や生徒・教職員間の連帯意識を高める。
- ・ 災害時等における教職員の危機管理意識の向上を図り、生徒自らが自己の安全を確保できるよう指導し、合わせて地域社会への共助、貢献する心を育てる。

④健康・安全の推進

- ・ 学校保健計画に基づき、保健委員会が中心となって生徒の健康の保持増進を図り、安全確保を徹底する。
- ・ 教育相談室の機能をより充実させ、生徒の心と身体の悩みに対応し、いじめ等の問題行動を防止するとともに、生徒の精神的自立に向けた取り組みを推進する。
- ・ 環境美化を重視し、教員が率先してごみの分別、リサイクルや清掃活動を行い、生徒へ環境保全についての啓蒙を行う。
- ・ 都の改修計画を見据えながら、経営企画室が中心となった施設・設備の老朽化対策を行う。
- ・ 校舎内外にある不用物の撤去及び廃棄を推進し、教育活動を行う適切な場として整備する。
- ・ 生徒一人一人が薬物乱用による健康被害を身近なものとして捉え、薬物乱用防止に向けた学習を継続する。

(3) 広報活動の充実

- ・ ホームページの更新を頻繁に行うことで、本校の教育活動をタイムリーに発信し、中学生やそ

の保護者、本校保護者や地域の方々の理解と信頼を得る。

- ・ 本校の魅力や取組みを整理し、全教職員が同レベルの広報活動を円滑に行えるようにする。
- ・ 総務部が中心となり、全教職員協力の下、学校説明会や学校見学会等で広報活動を行う。
- ・ あじさいウィークや学校施設開放を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。
- ・ 地域社会や中学校と部活動や生徒会活動等で連携し、地域に密着した教育活動を行う。

(4) 学校経営について

- ・ 本校の特色を整理した上で、将来に向けた学校体制を検討し、教育活動の改善を進める。
- ・ 企画調整会議の内容の周知を徹底し、全教職員が同一の方向に向かった教育活動を行う。
- ・ 月1回程度、拡大分掌会を開催し、分掌及び学年間の連携を一層進める。
- ・ 経営企画室による学校経営参画を進め、企画室職員と教員が連携した学校運営を推進する。
- ・ OJT を活用した人材育成を浸透させ、管理職候補者、主幹教諭、主任教諭の育成に努め、ライン強化を行う。
- ・ 服務事故防止及び個人情報の管理についての意識を高め、組織的に安全管理を実施する。特に生徒に対する体罰については、外部指導員等を含め個別指導を徹底し、根絶する。
- ・ 災害時の緊急対応を教職員に周知させ、防災訓練を複数回実施するなど生徒の安全確保に万全を期す。また、日頃より節電・省エネルギーを学校全体で実施する。
- ・ 支援センターとの連携を密にし、職務の効率化・迅速化を図り学校経営基盤を強化する。

4 数値目標

	目 標 内 容	平成27年度実績	平成28年度目標
1	国公立 MARCH 現役合格者数	124 人	130 人
2	部活動参加者数	96 %	98 %
3	部活動・都ベスト32以上の成果	8 部	8 部
4	学校生活満足度	87.6%	90 %
5	授業満足度	84.8%	85 %
6	補習・補講満足度	74.5%	80 %
7	自宅学習時間 (2 学年後半)	71 分	80 分
8	ホームページ1日アクセス数	766 回	800 回
9	募集倍率 推薦	2.09 倍	3.00 倍
10	募集倍率 一般	1.21 倍	1.40 倍
11	来校者 体育大会	614 人	700 人
12	来校者 清高祭	3065 人	3200 人
13	来校者 学校説明会	2242 人	2500 人
14	図書貸し出し数	2041 冊	2200 冊
15	教員授業参観回数	149 回	200 回
16	夏期講習 講座数	47 講座	50 講座
17	夏期講習 参加者数	1211 人	1500 人
18	冬期講習 講座数	6 講座	10 講座
19	冬期講習 参加生徒数	277 人	300 人